

館の使命	千葉県立美術館は、千葉県ゆかりの美術資料を中心として体系的に収集、保管して後世に継承するとともに、「みる、かたる、つくる」により新たな知見を創造し、美術情報を発信します。 さらに、この美術活動をととして、美術を愛する人材を育成し、県民の学習および地域づくりを支援します。
------	--

事業名	平成27年度千葉県文化財保護条例60周年記念 特別展「香取神宮－神に奉げた美－」および関連事業「新春雅楽演奏会」
概要	特別展「香取神宮」では、関東を代表する古社であり、鹿島神宮と並び、『神宮』の社号をもつ東国の守護神として広く信仰を集めてきた香取神宮の、国宝「海獣葡萄鏡」をはじめ重要文化財や、千葉県指定文化財の古神宝類など数多くの文化財や、伝統と信仰に支えられた古代から近代までの優れた工芸、絵画、彫刻、書跡等の美術作品を一堂に展示・紹介する。あわせて絵巻や鏡の研究者をはじめ、香取市および香取市教育委員会、佐原商工会議所や観光協会など地域の団体と連携をとり、展示への助言や関連事業の協力をいただいて、様々な関連事業や被災文化財写真展など開催し、香取神宮のみならず香取市に関する紹介も多角的に行っている。

評価項目	視点例	目標・指	実施内容	結果・成果	今後の課題	所見・指摘事項
①事業目的	・事業の目的、企画の狙い等は、館の使命及び県民ニーズに照らし適切に設定されているか	館の使命に即した事業趣旨を設定し、効果的な事業の展開を図る	千葉県香取市にある香取神宮の文化財及び美術資料を紹介する。展示のほか関連行事を展開し、「みる、かたる、つくる」活動により新たな知見を創造し、美術情報を発信する。	香取神宮が所蔵する国宝、重要文化財、県指定文化財を一堂に会して紹介し、香取神宮の歴史や文化財の保存の大切さなど改めて見直すことができたという来館者の声があった。「かたる」活動では、ギャラリートークを充実させた。	今後も展示事業のほか、展示の趣旨を理解し、関心を深めるための効果的な関連行事を工夫する。関係する地域との連携や、様々なメディアを活用したPR活動等、情報発信を積極的に行う。	【石川】 ・重厚感があり、大変価値のある展覧会である。 【戸枝】 ・県文化財保護条例制定60周年記念という冠に相応しい展覧会であったとおもいます。文化財保護の必要性も啓蒙出来たのではないのでしょうか。「みる かたる つくる」を今後の活動に採り入れ、幅広い利用者層の開拓に繋げてください。 【村井】 ・本特別展を通して、文化財保護の大切に気づけてもらうことが最終的な目標であったとすれば、それに対する取組が不足していたと思う。 ・文化財保護に関する質問を投げかけ、自分だったらどうするかをコメントとして残していくコーナーがあってもよかったかもしれない。「みる」だけでなく、自分なりに考え、自分の言葉で表現することによって、社会全体の課題を自分ごととして捉えることができるのではなからうか。

<p>幅広い年齢層の来館者が楽しめる工夫をしている。</p>	<p>解説パネルの文字の大きさやフォントの工夫。雅楽演奏会、演武、香取市の物品販売など幅広い層が楽しめる内容の関連事業実施。子ども向けワークシートの作成など。</p>	<p>大項目バナーの大きさは横90cm×縦300cm、解説パネルは縦180cm×180cmなど壁を大きく使ったサイズとし、文字を大きくして読みやすくした。また、字が多くても読みやすいフォントをデザインしてもらった。関連行事では講演会のほか雅楽演奏会や演武、香取市の伝統工芸や物産品を紹介するイベントなどを行い、従来の来館者層と異なる層の方たちが多く来館した。</p>	<p>「目標・指標」に沿って、幅広い年齢層が楽しめる工夫としてワークシートなどを作成した。小・中学生の来館が少なく、子ども向けワークシートの活用は十分でなかったが、大人の方も手に取りやすいように配置したところ、楽しんでいただけたようであった。関連イベント参加者の年齢層は幅広いため、イベントにより、低い年齢層の来館者を展示への興味につなげる方法を今後考えていく必要がある。</p>	<p>【石川】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画展の内容が香取神宮が中心であるので、小中学生の来館が伸び悩むのはやむを得ないか。しかし、それ以上に上質の企画展であろう。 <p>【戸枝】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本テーマの展示では子どもの入館者は少なく、中高年の利用になるでしょう。 バナーによる展示テーマ区分表示は目立つとともにソフトなイメージがあり（色使い、文字も良い）スムーズな動線が確保できたとおもいます。 関連行事も多岐にわたり「展示」と「佐原」を周知し、幅広い入館者層の獲得に効果があったと考えます。 <p>【村井】</p> <ul style="list-style-type: none"> そもそも「香取神宮」を題材にした時点で、幅広い年齢層の利用は見込めなかったと思う。いくらイベントを実施しても限界があると思う。ターゲットの初期設定の妥当性を検討すべき。子どもにも来館してほしいのであれば、文化財に対する意識を啓発できる子ども対象向けの展示を別に設けてもよかったかもしれない。例えば、「自分のまちの宝物自慢比べ」のような子どもといっしょに展示づくりに参加できるプログラムを、中央博「妖怪展」のように1年ほどかけて取り組んでもよかったかもしれない。 結果欄に、従来の来館者層と異なる層を取り込むことに成功したように書かれているがその根拠資料を提示してほしい。 サインや解説など、デザイン・マネジメントに関しては良好であったと思う。
--------------------------------	---	---	--	---

		<p>県民ニーズを反映した事業展開とする。</p>	<p>歴史に興味がある層向けの解説パネルの充実、海獣葡萄鏡等展示の工夫、来場者から発信された希望や意見をすぐ検討し、展示に反映させる体制をとる。また、ギャラリートークを定期的に行うほか、団体見学の事前申し込みによりギャラリートークを実施。</p>	<p>通常の美術展よりも解説パネルの数や文字数が多すぎるのではという危惧があったが、来館者からの質問やアンケートの意見を受け、説明が不足していると判断し追加で製作した。展示会場で多く受ける質問については、Q&Aコーナーを設けるなどした。ギャラリートークは、月2回の定期的なもの4回以外に、見方を変えたり、海獣葡萄鏡にポイントを絞ったギャラリートークを12回行った。毎回楽しみに聞きにかけているという方もいた。そのほか団体見学に対応したギャラリートークを4回行った。</p>	<p>本来の美術館の展示の趣旨から離れた歴史系の事柄についても興味を持って質問されることがあり、解説は十分ではなかった。会場で直接質問を受け付けるなど職員の自主的な対応により、来館者の満足度が高まったように思う。展示内容に即した県民ニーズを考えていく必要がある。</p>	<p>【石川】 ・今回の展覧会を通して、普段は美術館に足を運びにくい歴史ファンなどの取り込みができるとういだろう。</p> <p>【戸枝】 ・ギャラリートークは入館者の見学の集中力を高め、それが満足度を高める結果に繋がります。更に、口コミによる広報にも広がります。ギャラリートークを行うことで入館者の反応を観察でき、展示の改良にも役立ちます。</p> <p>【村井】 ・「観覧者のニーズ」には答え、改善したことは評価したい。ただし、歴史的な解説に関しては十分とは言えなかったと思う。今回のような特別展の場合には、歴史研究者と早めに協働体制をとり、解説計画を進めるようにすべきだと思う。</p> <p>・「県民ニーズの反映」は、公開後に行うものではないと思う。企画段階でニーズを把握すべき。初期段階評価（front-end evaluation）やマーケティングの手法を学ぶべき。</p> <p>【石川】 ・理解が難しい内容も工夫されていた展示の努力を評価したい。</p> <p>【戸枝】 ・チラシ、ポスター、図録とも冠展に相応しいものとおもいます。美術館という大きな展示室、展示ケースを有効に利用し、分かりやすい展示となっていた。</p> <p>【村井】 ・デザイナーの登用により、質の高い展示デザインとなっていた。 ・文字による解説不足をギャラリートークの開催やQ&Aコーナーの設置など、人による解説で補っていた点は好印象。観覧者からも好評だったのではないかとと思う。（が、数値データがないので確信持てず。）</p>
②事業内容	・目的・ねらいを正しく反映する工夫がなされているか	<p>わかりやすく、楽しむことができる展示の工夫</p>	<p>企画趣旨に即した単元構成を行い、バナーやパネル、キャプション、図録において単元ごとの色とグラフィックを統一し、視覚的にわかりやすいデザインとした。また、見どころを30～60字で絵巻の登場人物がやさしく説明する小パネルを設置した。</p>	<p>会場構成をわかりやすくするため、解説パネルやバナー等のデザインをポスター、チラシ、図録等印刷物や看板類と連動させた。また、絵巻の登場人物が話しているように配したポイント解説をつけた。来館者には、わかりやすいという評価をいただいた。</p>	<p>デザインの統一により、見やすい展示となった。予算面や時間的な問題もあるが、わかりやすい解説や会場構成、展示造作にデザイナーの活用は必至である。</p>	

<p>香取神宮ゆかりの貴重な文化財などについて理解できる内容とする。</p>	<p>実際の展示だけでは紹介が不可能な、絵巻のすべてをグラフィックパネルにしたり、資料の細部を拡大した画像を資料の背景や、キャプションの脇などに設置した。また、「木造十一面観音立像」が美術館に搬入、展示されるまでの記録を写真パネルで紹介、式年神幸祭映像や千葉県指定文化財の紹介映像の上映、香取市被災文化財の被害と復旧についての写真展などを実施、貴重な文化財を守り伝えることの大切さを知る機会とした。</p>	<p>現存する6点と写真が残っている1点の計7点の神幸祭絵巻、全画像のグラフィックパネルはこれまででない試みであり、最新の研究成果を講演会で発表するなど、多くの人の関心を呼んだ。「海獣葡萄鏡」の展示は鈕の部分がよく見えるように展示するなどの工夫をした。「木造十一面観音立像」の展示とともに搬入までの記録写真をパネルで紹介し、展示の裏側について来館者の関心を引いた。香取神宮に係る多くの文化財だけでなく、被災した重要伝統的建造物写真の展示などでも文化財の保存について考える機会とした。</p>	<p>写真撮影や幅14mの斜台やグラフィックパネル制作、3m以上の「十一面観音立像」の背景の取り付け壁製作など助成金の活用により実現した。効果的な大きさや数のパネル制作、展示造作などを実現するためには、予算面での確保が必要。</p>	<p>【戸枝】 ・十一面観音立像（総高3m）の展示も工夫（耐震、空調、）がなされ、迫力のある展示となっていた。美術館展示室の強みでしょう。現存神幸祭絵巻の全巻展示、グラフィックでの紹介は、比較研究上、意義のあるものでした。（グラフィックの表具継目が見えず、長尺展示として見やすい展示でした）テグスで固定された資料があったが、テグスが目障りでなく資料をよく観ることができた。（工夫された照明）</p> <p>【飯田】 絵巻の展示について率直に感動しました。関係者のご努力に敬意を表します。</p> <p>【村井】 ・神幸祭絵巻のすべてをグラフィックパネルで比較しながらじっくり観覧できる ・個々の文化財を詳細に観察できる ・展示の裏側を紹介するなど文化財資料に対峙し、その価値に気づかせることができる展示手法となっていた。よく見てほしい、わかってほしいという思いから、多くの工夫が施されており、感心した。</p>
<p>関連事業の実施にあたり、特別展の趣旨に即した展開を図る。</p>	<p>研究者をはじめ、香取市および香取市教育委員会、佐原商工会議所や観光協会など地域の団体と連携をとり、幅広い層に香取神宮と香取市を多角的に紹介する事業を行った。</p>	<p>香取市および香取市教育委員会をはじめ、地域の団体の協力により、多彩な関連行事を実現することができた。1日に複数のイベントを行う日もあったが、学芸課、普及課、庶務課の連携によりスムーズな運営ができた。</p>	<p>今回の特別展は地域性が極めて高い内容であったため、計画段階から地域の関係団体と緊密な連携を取ったことにより、関連事業も成功することができた。関連事業については、展示内容と大きく関係することから、目標達成のために臨機応変に対応する必要がある。</p>	<p>【戸枝】 ・本展示は、香取神宮と関連多方面の協力で開催された。資料の借用は信頼から成り立つもので、今回の展示は美術館の信頼度も増したのではないのでしょうか。また、館員の連携も信頼に繋がり今後引き継いでください。</p> <p>【村井】 ・地域と連携・協働した多様なイベントの実施、ご苦勞様でした。 ・実施後、地域貢献・地域連携の観点から、どのような効果（波及効果も含めて）があったのかについても言及してほしい。</p>

<p>事業周知のために多角的な広報戦略をとる。</p>	<p>ポスター、チラシの効果的な配布とHPでの紹介のほか、新聞ほか各メディアの千葉支社の後援により、取材を受け、掲載、放映された。新聞広告を数社で行った。また、千葉県観光PRの行事や旅行会社のツアーの企画への参加など、特別展の広報を行った。観光記者会関東ブロック定例記者会では香取市とともに特別展の広報を行った。</p>	<p>香取市など地域の団体で広報を積極に行っていた。千葉テレビの取材3回のほかケーブルテレビの放送、朝日新聞（夕刊）、千葉日報、読売新聞に広告を掲載、千葉日報に連載（3回）、広報誌等13紙に情報を掲載した。アンケートでは新聞広告と千葉テレビの効果が見られた。旅行会社企画ツアーが1回あった。東京での観光PR行事で広報を行ったほか、香取神宮と関係深い茨城県の利根川流域の市町村にも広報を行い、団体見学があった。また、各地の神社や神社関係者に広報を行ったことにより、神社庁の後方印刷物、ホームページ、ツイッター等にも取り上げられた。</p>	<p>展覧会の内容に応じて広報のエリア設定などを検討する必要がある。特に地域性の希薄な内容の場合は更に検討する必要がある。</p>	<p>【戸枝】 ・マスコミの露出は多かったのは、資料紹介の連載（3回）も分かり易い。会期終了直前まで紹介記事が掲載され広報活動の努力が窺えます。今後も各媒体への情報提供を行い連携を深めてください</p> <p>【飯田】 ・意欲的な特別展をした結果を広報面での総括もして次回の取組にしっかり活かして欲しい。ツアー造成に当っては、どれだけ特別感が出せたのか？(ここだけ・今だけ・あなただけ、ギャラリートークなど)など検討すべき。</p> <p>【村井】 ・観光ツアー（はとバス）の企画は実施に至らなかったのは残念なことだったと思うが、続けて美術館の存在の認知度を高めていくことも必要だと思う。 ・広報のエリア設定の検討は、もっと科学的に分析すべきではないか。ただ、東京方面からの来館者を増やしたいからと言って、特別展の題材も考えずに広報するのはいかがなものか。例えば、鹿島神宮や霞ヶ浦近郊の市町村など、香取神宮の価値を熟知している住民をターゲットのひとつに置いてもよかったのではないかと。</p>
-----------------------------	--	--	---	--

重点事業評価票

美術館

③満足度	・お客様は、満足してくれましたか	入場者目標人数 28,000人 (有料入場者 7,500人)	1月6日現在 5,347人(1,502人)	入場者数 8,541人 (有料入館者数 2,555人)	メディアへのPR と来館者層の分析、開催時期の検討をする。	【戸枝】 ・各方面の協力が多かったが、入館者数に反映できなかった。今後の課題記述のとおりだと思います。 【飯田】 ・特別展の開催期、事前告知の方法や対象者、運営面など反省点を洗い出し、新たな仮説をもとに次々回に取り組んでください。 【村井】 ・目標数は妥当だったのか。
		入場料収入目標値 4,050千円	1月6日現在 1,265,940円	2,038,200円	来館者層の分析、開催時期の検討をする。	【村井】 ・目標数は妥当だったのか。
		アンケート調査での「満足」「ほぼ満足」の回答80%以上	展示内容、展示空間、解説などの各項目について自由記述方式のアンケートを実施した。	展示内容については84%、展示空間については77%、解説については69%の「満足」「ほぼ満足」という回答を得られた。(アンケート回収率6%)	調査方法については、これまでのやり方を見直し、改良したい。	【石川】 ・来館者にとっては、価値のある展覧会であり、評価は高いと料する。 【村井】 ・満足した理由が重要。満足度はどの設問か。平均値か。サンプリングは書きたい人が書く方式か。だとすれば、非標本調査なので、数値に信憑性なし。精度の高いサンプリング・サンプル数でないとしても意味がない。
④運営	・関係団体との協働体制が築けたか。	友の会やボランティアが参画し、職員とともに活動する。	友の会会員やボランティアを通じてポスター掲出やチラシ配布など特別展の広報を行い、友の会と職員が連携して特別展オリジナル絵馬やクリアファイル、絵ハガキなどの商品を開発し、販売を行った。また、草月流の屋外展示を無償で行ってもらった。	草月流の方たちの協力により、おもてなしの心を入館者に伝えることができた。雅楽演奏会では出演者の方々による華やかないけばなを講堂前に展示していただき、雰囲気盛り上げた。友の会の協力によりミュージアムショップ商品の開発を行った。	友の会会員が積極的に活動し、その活動の充実を職員がサポートする体制が望ましい。	【戸枝】 ・館外周のお花(草月流)によるイメージづくりは見事でした。館への入り口が2か所あるので矢印による誘導が必要と思います(常置型)。 【村井】 ・草月流の方達などの協力を得ることができ、美術館側の「おもてなし」の姿勢が来館者に伝わったと思う。こうした取組は、今後も継続してほしい。

<p>企業や団体、他の教育機関などとの連携、協力関係が良好である。</p>	<p>香取神宮をはじめ、香取市や香取市教育委員会、NPO団体、観光協会等と連携し、ポスターやチラシの配布、HPでの紹介などの広報協力依頼をした。関連行事としてKATORI special daysで、香取市佐原の物産や伝統的工芸品や伝統文化を紹介した。また、ポートタワーなど美術館近隣の商業施設やホテルと連携し、美術館のオリジナル絵馬の絵馬堂や看板の設置、アートランチなどの企画開発を実現した。美術館レストランで香取市の野菜等を取り入れたオリジナルメニューを開発した。</p>	<p>これまで美術館に來なかつた層も呼ぶことができた。美術館周辺の商業施設との連携も深めることができた。美術館レストランのメニュー開発も積極的に行ってもらい、レストランのイメージが上がった。</p>	<p>様々な団体との連携により多角的な展開を可能にする。団体にとってもメリットがあることが大事である。</p>	<p>【戸枝】 ・レストラン、近隣ホテルでの展示関連メニューの販売数は如何だったのでしょうか。今後も展示関連メニューが考えられると良いと思います。（価格と販売数にもよるが）。</p> <p>【飯田】 ・特別展の内容としての積極さと連携した活動についてのメリットばかりでなく反省点もあるように思う。これも次回の特別展に是非活かしてください。美術館や博物館は観光としてのバリューアップには欠かせない要素であり、事前の告知を含めて大いに連携して集客に役立てて下さい。</p> <p>【村井】 ・香取市の地元の食材を使ったレストランのメニューの提供、県美マルシェの実施、周辺商業施設や旅行会社との連携など、多様な取組は、閉鎖的であったこれまでの美術館のイメージを変えつつあると思う。この方向性でさらにながらばってほしい。その際、県民にとってどんな美術館でありたいのか（ビジョン・理想像・将来像）を、みんなで話し合い、言葉で表現し、共有化する場を設けてほしい。そして、それを県民に周知させてほしい。（→3年後、5年度、10年後に、長期的な実績指標として測定するのが好ましい）</p>
---------------------------------------	--	---	---	--

重点事業評価票

美術館

	事業実施にあたり外部資金の導入を図る。	文化庁の芸術文化振興基金及び花王芸術・科学財団の助成金を活用して、事業を実施。	助成金の活用により、重要な資料を借用することができ、効果的な展示造作を計画し、実現することができた。	今後も効果的な展示実現のため活用したい。	<p>【戸枝】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き外部資金の獲得に努力してください。意義ある展示や、多彩な関連イベントの開催が獲得の要因ともなります。また、館員が獲得のためのアンテナをひろげておく必要もあります。 <p>【村井】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も外部資金の導入を図り、事業の質を高める努力を続けてほしい。
--	---------------------	---	--	----------------------	--

総合評価

【石川】
 県立美術館で香取神宮を企画した価値、質の高さなど、限られた予算の中での成果は評価されるべきと料する。本展覧会を通して、県立美術館に関心を持つ層が増加することを願いたい。

【戸枝】
 規模の大小はあると思いますが、このような寺社展（宝物、文化財、宗派）をシリーズ化したらどうでしょう（毎年でなくとも）。

寺社所有の資料は、現地にいかなければ拝観することが出来ず、今回のような展示は定着すれば、入館者増が期待できると考えます。既に各地の寺社の文化財態皆調査が報告されています。今後も美術館展示室を有効に利用した展示の開催を期待します。

【村井】
 デザイン・マネジメント、地域連携、官民連携、外部資金の導入に関しては良好な結果を残せたと思うが、美術館が開催する「文化財保護の普及事業」としての意識がいくぶん低かったように思う。「千葉県文化財保護条例60周年記念」と冠した特別展であったとすれば、これまでの県の取組や今後の方針を県民に伝える場としても活用すべきではなかったのか。その点は残念に思うが、総体的には様々な工夫や取組がなされた特別展であったと思う。

千葉県内に散在している個人蔵の文化財や貴重な資料を今後どのように保存・継承していくのか、千葉県の見解を早急に示してほしい。

【飯田】
 出生地に近い香取神宮がギャラリートークや絵巻など普段見れないものを見られて感動し、見直したところ。絵や作品群ではないのでギャラリートークは必須だと思います。有料でも回数を増やすべきだと感じますし、それを通じてリピーター来館者に繋げる・・・と言う戦略は成り立つのではないのでしょうか？企画者側と見る側の会話を通して本当のニーズを浮き彫りにして美術館が来館者の新たな気づきの場にしていくべきと感じました。スペシャルランチはヒットです！

対 応

- アンケートでは初めて来館した人が市内外、県内外共に多かった。文化財の展示であったため、これまでと違う層が来館したと考える。
- 今回の展示の経験を生かし、企画展等で今後、寺社等の文化財を取り上げる可能性が出てきた。
- 県内の文化財の保存・継承については、文化財課の指導のもと進めていきたい。
- 初期段階でのニーズの把握について、事前の調査などを検討したい。
- 今回の特別展において得た、展示手法や、ギャラリートークを含めた関連行事の運営、ターゲットの設定、広報、他方面との連携などについての評価や反省点を館内で共有し、今後の展覧会企画に生かしていきたい。
- 今回の特別展では、当初の企画段階からターゲットは高齢者に設定しており、重点目標の「目標・指標」を展示の内容に応じて適切な目標・指標に設定することも考えられる。
- 視察の際ご指摘のあった、2か所ある美術館入り口の案内表示については、常置型の看板を3月末に設置する予定である。